



かえで



編集 社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東砂6-2-14-3階 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

副理事長あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 副理事長 宮内 洋

元号が令和になり早くも半年が過ぎました。今年も暮れになり慌ただしさが増してくると思います。

さて江東楓の会では今年も様々なことがありました。一番の出来事は本部の移転と共同生活援助かえでに新たなユニット「かえでプラス」が開所した事ではないでしょうか。開所するまでには色々なタイミングが重なりました。7月に高齢障害者さくら分室こんとねが20名から10名へ定員変更を実施したことで、空きスペースとなった「こんとね」3階部分へ本部が移転することとなりました。そして元々本部のあった楓ビル1階部分を新たな生活の場「かえでプラス」として10月に開所することが出来ました。男性4名とこぢんまりとしたスペースです。まだまだ落ち着いたとは言い難い状況ですが、入居した利用者の皆様それぞれが新しい自分の生活スタイルを作り上げている最中です。これも大家さん（後援会会長）始め地域の方々の多大なるお力添えあってのもの、この場を借りて御礼申し上げます。共同生活援助かえでの職員も、どうしたら日中活動を過ごしながら無理なく新しい生活をスタート出来るのか通所施設と連携を取りながら支援しているところです。法人としても軌道に乗るよう支えている所ですのでご指導の程お願い致します。

また、江東楓の会も早いものでこの12月で18年目を迎えました。法人では毎年職員の経験年数に合わせ研修を行っています。年度初めに行う採用時研修を始め理事長講和による全体研修や新人向け、中堅職員向けや法人内事業所間で職員が3日間入れ替わる交換研修等多岐に渡る企画運営を研修委員会中心に行っています。法人の年齢とともに職員の経験年数も徐々に長くなってきたこともあり、今年度より5年以上の経験を持つ職員向けの上級研修や施設長・支援係長対象の研修を導入し人材育成の充実を図りました。利用者の皆様の安心した生活に結び付いていくよう、こうした取り組みの充実を図っていききたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

「地域とのつながり」

江東区亀戸福祉園 支援員 柴井 勝也

亀戸福祉園では、地域とのつながり活動として、区役所内の「るーくる」や地域のお祭り（区民祭り等）に出店し利用者が活動で作成した自主生産品（ビーズ製品）の販売しています。お祭りに来られた利用者の方も一緒に販売に参加することもあります。また、近隣にある亀戸中学校から職場体験として学生の受け入れを行ったり、宿泊や行事の際には多くのボランティアに協力していただいています。例年行っている園のお祭り「かめ亀カーニバル」では、多くの地域の方に遊びに来ていただいています。少しずつですが、重度の障害を持った方の日中活動の場である事を知って頂く発信源となっております。また、受注作業として地域情報誌「ぼど」というチラシを折って配布する仕事を頂いています。活動中に利用者の方と園周辺の地域にポスティングを行っており、定期的に配っていることもあり地域の方も覚えてくれて声をかけて下さったり、「いつもご苦労様」という言葉が利用者の方の励みとなっていると感じています。今後も地域とのつながりに繋げていくために、何ができるのか日々の支援や活動を通して利用者、職員一丸となって考えていければと思っています。

自主生産品「こだわりと進化」

ワークセンターつばさ 支援員 竹田 理恵

つばさのお煎餅は埼玉県草加市より国産米100%の生地を取り寄せて使用しています。生地を1時間程温め、伸びやすくなるよう下準備を経てから両面を丁寧に焼き上げます。時期や気温によって生地の焼き上がりの状況が異なるので、試行錯誤の毎日です。味付けについては素材にこだわっており、7月にはシーズニングの説明会に参加し何十種類ものシーズニングを味見出来た事は、今後の商品開発に大きなプラスになりました。今回はこの中で気になった味を使って試作し、職員間でお楽しみの試食会をしました。職員の年齢層にもよって、感想や味の好みに大きく差が出る面白い結果が出ました。この時に作ったキャラメル味とトマトバジル味は、施設祭り限定で販売し大好評でした。また11月からは新商品カレー味の販売をスタートし、小さなお子様から、ご年配の方まで味わっていただける味付けとなっております。

また昨年もお好評いただいたバレンタイン限定販売のチョコ煎餅は、今年は冬季限定として販売を予定しております。昨年とはチョコの種類や形に変化をつけ、お客様により美味しく、見ても喜んでいただけるよう12月下旬の販売に向け、現在試作中です。今後の課題としては、日々製造者が異なる為、味の安定化や引継ぎ等にムラが出ないようにし、また製造に携わっていただく利用者の方が増えるようにという事も意識し、職員体制を整え取り組んでいます。煎餅作業、販売会への参加を通して利用者の方にも変化があり達成感や責任感等が芽生え、作業中笑顔を見せながら取り組まれている様子が見られるようになりました。またここ数年で利用者の方同士の交流が増え、会話やゲームから始まり、協力する姿が見られ、職員が利用者の方に助けられていると感じる事があります。日々の変化に気づき、こういった状況をこれからも大切にし、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思っています。

モニタリングについて 『上半期を終え、中間期で見直しを行なうこと。』

第三あすなろ作業所 支援係長 遠藤 仁美

まずは、計画の目標や課題、ニーズに対して、どんな支援をし、どんな出来事があったのかを、記録から抜粋します。次に、その状況をより鮮明にするため、他職員の見え方や、細かなやりとりを聞き取り、今後どういった支援が必要なのかを考察します。これらを行なうと、（以前はどうだったのだろう）と当然気になりますので、過去に遡り情報収集。24時間365日のうち、作業所で過ごす6時間だけを切り取っても、その人のすべては見えません。作業所以外の情報が必要だということに気づきます。日々、職員間で支援について話し合いますが、一人の利用者のことをじっくり考える時間はとても大切だと思います。

この上半期で心に残っていること。

家庭の予定が気になり、気持ちが不安定になりやすいAさん。本当は楽しみにしているであろう行事に後ろ向きになることや、作業に集中できない様子が見られたので、ご家族との電話のやりとりを増やしました。Aさんとの会話がスムーズになることや、「お母さんと話をしてくれてありがとう」と言われることがありました。成功につながるばかりではないと思いますが、この一歩から開けてくることは必ずあると思います。また、ご家族と連絡を取り合うことの大切さを感じました。

できなかったことに目が向きがちですが、一緒にうれしいと感じられたことの数それが上回るよう、日々過ごしていきたいです。

「健康管理の取り組み」

高齢障害者通所施設さくら 看護師 神内 梓

病気を引き起こす感染症の多くは「手」を介してウイルス・菌が体内に侵入し、発症するといわれています。さくら本館では、通所した利用者さんには最初に手洗いとうがいをお願いします。朝礼前には概ねすべての利用者さんの手洗いとバイタル測定が終わります。体温や血圧・脈の数値という客観的なデータや、測定中の様子（表情や話し方、歩き方など）を見て普段の状態との違いをチェックし、変わったところがあれば職員朝礼で共有しています。その間、利用者さんたちは麦茶で補水をしています。一般的に高齢者は、のどの渇きを感じにくいと言われていて、水分摂取が進まないため、さくらでは声掛けや配膳をし、1日の中で4～5回は水分を取れるように促しています。のどや鼻にある「繊毛」はウイルスや菌を体外に排出する働きをしています。乾燥で繊毛の動きが鈍くならないように、水分摂取や加湿をすることが重要です。また、手すりやドアノブなど、不特定多数の人が触れる部分は、ウイルスや菌がつきやすくなります。休憩時間の換気や、掃除の時間にアルコールスプレーをかけて拭いてもらい、除菌を心がけています。その他、毎日のラジオ体操前にストレッチやスクワットを行ったり、昼寝の時間の設定、昼休み後のウォーキングなどで体力の低下を防いでいます。ひとつひとつは小さい取り組みですが、さくらの利用者さんが毎日、元気に通所するために欠かせないものになっています。

『作業を通して得られる喜び』

若竹作業所 支援員 片桐 謙一

現在、若竹作業所ではダイレクトメールの封入や広告などのチラシを封筒や袋に入れる作業や、宛名シールやラベル貼り、チラシの折り、箸作業などの依頼を受け利用者の方に提供し取り組んでいただいております。利用者の中には通所されてすぐ搬入されてきた資材を確認して、今日は何の作業をするのか、毎日様々な作業に取り組むことができることを楽しみにされている方が多くいらっしゃいます。

若竹作業所では今年度からの取り組みとして一日の終わりに、利用者の方達とその日一日の振り返りをして、意見や感想などを自由に発表していただく時間をつくっています。振り返りでは普段寡黙な利用者の方から、みんなで協力して作業を仕上げることができたことが良かったと発表してくださったり、今まで苦手だった作業に挑戦して、上手くできるようになったことの喜びを話してくださったり、以前に行った作業が楽しかったのでまたやってみたいなどの意見が発表として挙がっていました。

利用者の方達は作業を行うことを通じて仲間と共に協力し合って、仕事を納期に納められたことの達成感、いろいろな作業や新しいことに挑戦して上手くできたことが喜びとなっていると改めて感じることができました。この取り組みを通しての利用者の方からの言葉は、私自身にとっても大変嬉しいことであり、また仕事へのやりがいにも繋がることでもあります。これからも利用者の方からの声を大切に、利用者の方と職員で協力し合いながら、より充実した楽しい作業所となるようにしていきたいと思っております。

プラス寮開設に伴う利用者生活の変化

共同生活援助かえで 支援員 松本 和久

この秋 10/1 より今まで法人本部がありました楓ビル 1F に新しいグループホームユニット「かえでプラス」の運営が開始されました。新しく 4 部屋の寮内に 3 名の利用者が入居されました。新しく入居された利用者は、グループホームの生活については全員今回初めてという事で、家族以外の人たちと生活を共にするというのも初めてになってきます。入居当初様々な課題が予想されましたが、現在懸念があった事についても問題はなく利用者同士の仲についても良好に過ごされております。今後現在の生活に慣れてくるにつれ、別の課題が上がってくると思われそうですが、それらについても関係者同士で連絡を取り最善の対策を講じていけるよう努めていきたいと思っております。

また、新しくユニットが加わるにあたり他のユニットの食事提供についても一部変更点が出てまいりました。変更当初若干の習慣の変わりように困惑する利用者もいましたが、現在は上手く自分の習慣を当てはめることで普段通りの生活に戻りつつあります。まだ新しく入った利用者として以前より住んでいた利用者との間で会話をすることが少ない状況です。今後はお互いを知るという意味でユニット間の交流も視野に入れて活動を行っていききたいと思っております。

江東区リバーハウス東砂 支援係長 坂本 夢来

当事業所も事業開始から約2年が経ちました。おかげさまで区内の多くの利用者の皆様からご利用をいただいております。ここまでリバーハウスを運営してきて、他事業所、関係機関との連携が非常に大切だと感じています。短期入所事業に関しては日中活動事業所、移動支援事業所の送迎を利用して来所される方が多いです。送迎時間等の事務的な確認はもちろんの事、必要に応じて、ご本人の体調面や情緒面に関する事など、日中の様子を確認しています。短期間一時的に支援を行うサービスの為、直近の様子を把握できていない事がある為、送迎を行っている事業所にご本人の様子を確認させていただき、必要な配慮や支援の参考にする事で、安全、安心して利用していただけるように努めています。

また通過型グループホーム事業では、利用期間終了後の生活を考え、次の生活へと繋げていく役割があります。利用者、ご家族としては住み慣れた地域で生活をしていきたいという希望は多いと思いますが、すべての希望を叶えるだけの環境が整っていないのが現状です。そのような状況の中で現在、利用者の望む生活に近づけられるように、相談支援事業所、日中活動事業所や病院なども含め、その方を取り巻く社会資源と情報共有を行っている最中です。今後ご本人の望む生活の実現、より良い支援を行えるように関係者の皆様と連携をとっていききたいと思っています。

ピンクと青の受給者証の違いって？

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 萩原 洋

いつも当事業所にご協力いただきありがとうございます。楓の会ヘルパーセンターで提供しているサービスは、居宅介護・重度訪問介護・特定相談支援、そして移動支援があります。特に今回は居宅介護・重度訪問介護・移動支援の違いについて説明させて頂こうと思います。

まず、居宅介護と重度訪問介護は皆さまがお持ちのピンクの受給者証で利用できるサービスで、国が定める障害福祉サービスです。移動支援は青い受給者証で利用できるサービスで、江東区の地域生活支援事業のサービスです。次に各サービスの内容ですが、居宅介護は、利用者の居宅において、入浴や食事・トイレなどの身体介護、調理や掃除・洗濯などの家事援助、定期的な通院に付き添う通院介助を行うサービスです。重度訪問介護は、身体介護・家事援助・通院介助を状況に応じて支援するサービスです。そして移動支援は、主に余暇活動に伴う外出や突発的な急を要する通院をする際に利用できるサービスです。また、江東区に認められた場合のみ、通学・通所の利用が可能になります。例えば、2か月に1回の主治医のところへついてきて欲しいという場合は、居宅介護の通院介助、または重度訪問介護を利用し、急な発熱で病院へ行きたいという場合は、移動支援が利用できます。どちらの例も支給の決定を受けている場合に限りです。それぞれ利用されている方も多数あるサービスで似ている部分もある様に思われますが、利用する目的によってサービスが異なるので気を付けていただければと思います。ご不明な点があればいつでもお問い合わせください。

※ 表紙でご紹介した理事長講和による全体研修の風景です。



令和元年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第40号からつづく)

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 八島 美佐子 | 鈴木 一生 | 安藤 美佐子 | 安藤 さゆり |
| 関口 孝子 | 新田 静子 | 小宮 聡子 | 町田 高宏 |
| 関口 利男 | 新田 康二 | 松島 かおり | 中野 健一 |
| 関口 ハツ | 水谷 のぶ子 | 名古屋 敬太 | 岩橋 稔 |
| 森野 博之 | 政木 昌子 | 榊満 美希 | 戸田 明宏 |
| 木村 京子 | 大塚 伸一 | 齋藤 沙友里 | 松崎 泰典 |
| 近藤 裕介 | 北原 正晴 | 福水 翔介 | 木ノ村 康浩 |
| 千葉 利恵 | 長瀬 亮一 | 米川 直輝 | 木ノ村 京子 |
| 荒井 英之 | 川口 晃洋 | 小高 郁乃 | 杉山 登久子 |
| 平原 稔 | 新井 洋子 | 柴井 勝也 | 千葉 裕子 |
| 奥山 寿美子 | 長谷 雅子 | 山上 健太 | 田中 啓之 |
| 斉藤 良子 | 中山 晴貴 | 渡辺 尚子 | 小玉 睦子 |

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 中邨 敏子 | 工藤 紀之 | 高橋 愛美 | 下尾 さつ子 |
| 中邨 シゲ | 古河 宏太郎 | 半田 力也 | 池山 遼一 |
| 山口 益弘 | 熊倉 歳之 | 齋藤 由香 | 倉田 久美 |
| 小田 緋呂子 | 及川 綾乃 | 埴谷 孝行 | 鈴木 康之 |
| 文屋 美佐子 | 新田 真由美 | 鶴岡 有希 | 田島 敬子 |
| 柴原 弘子 | 中野 和広 | 佐藤 奈津子 | 今井 達也 |
| 臼倉 幸夫 | 伊藤 善彦 | 明石 真理子 | 林原 美奈子 |
| 鈴木 真澄 | 遠藤 仁美 | 佐藤 由美 | 林原 美穂 |
| 石井 翔平 | 山中 修司 | 針ヶ谷 清子 | 武田 俊彦 |
| 高橋 真理子 | 佐々木 優子 | 大野 誉仁 | 原 隆典 |
| 石川 信彦 | 岸本 大輔 | 桜井 千鶴子 | 坂本 夢来 |
| 明石 大介 | 片桐 湖生 | 岩間 頌子 | 新鋪 文彦 |
| 佐々木 智彦 | 丸山 裕輔 | 大野 真実 | 岡崎 吉泰 |
| 白石 昇 | 奥田 千香子 | 橋本 春美 | 水島 聖子 |
| 高月 のぞみ | 瀬尾 かおる | 寺崎 貴子 | 平塚 早央里 |
| 蔡 徳昇 | 村田 茂儀 | 山田 瑞季 | 桑島 直之 |
| 島田 由美子 | 今井 千夏 | 会田 久雄 | 田宮 聡子 |
| 工藤 真知子 | 安里 修 | 会田 秀子 | 神内 梓 |
| 石井 真実 | 高田 和美 | 会田 直子 | 赤間 典子 |
| 有馬 明美 | 青木 知子 | 山崎 好子 | 出村 吉伸 |
| 有馬 裕美 | 赤津 正徳 | 宗 菜摘 | 政司 美佐子 |
| 甘利 英子 | 阿部 勝 | 山崎 護 | 鷹木 清光 |
| 亀井 洋子 | 伊能 ひかり | 田崎 幸克 | 加藤 悦宏 |
| 大橋 栄代 | 上田 晃 | 高橋 秀一郎 | 石毛 貴子 |
| 滝澤 摂子 | 金子 晃久 | 猪狩 健治 | 成田 敦子 |
| 佐々木 緑 | 鹿間 勝 | 東條 里香 | 中島 増夫 |
| 萩原 洋 | 鈴木 香希 | 橘 和法 | 加藤 リツ子 |
| 仲俣 圭 | 武田 昌和 | 恩田 喜代美 | 瀧本 正一郎 |
| 松本 和久 | 富谷 智枝 | 菅原 拓也 | 阿部 秀和 |
| 夏梅 幸雄 | 平山 史弥 | 石井 潤子 | 水野 富一郎 |
| 夏梅 照子 | 峯尾 豪 | 秋庭 敏宏 | 石田 強史 |
| 夏梅 幸子 | 渡部 博信 | 中山 達也 | 尾種 健一郎 |
| 三枝 朋子 | 斉藤 誠 | 菊池 賢志 | 脇田 芳子 |
| 石井 公子 | 竹田 祐樹 | 沼田 雅晴 | 小平 亜弓 |
| 石井 潤一郎 | 大場 恵利 | 菊池 太郎 | 駒崎 桂一 |
| 中村 勝則 | 伊藤 和子 | 池田 颯思郎 | 内田 善雄 |
| 森 せい子 | 宮本 直起 | 品田 友香 | 永山 勝孝 |
| 渡辺 享子 | 山口 彩 | 山田 一義 | 酒井 朝雄 |
| 五戸 聖士 | 三村 久美枝 | 坂 博 | 嶋田 知詠子 |
| 島田 賢治 | 相楽 由里子 | 渡邊 恭史 | 安達 芳正 |
| 佐久間 勉 | 梅内 勇介 | 田中 匡堯 | 浦野 和代 |
| 小林 志郎 | 得重 博史 | 松渕 秀美 | 門井 千代子 |

| | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 小原 直人 | 中井 孝吉 | 青地 美知子 | 井上 貴史 |
| 小倉 成子 | 濱野 隆介 | 藤山 和未 | 若井 一郎 |
| 大貫 隆 | 尾戸 千尋 | 庄司 千春 | 阿部 敬 |
| 平野 智寛 | 隅谷 知子 | 金子 晶枝 | 小桜 勲 |
| 隅谷 貞子 | 諸橋 章子 | 山本 和彦 | 御園生 豊 |
| 野呂 健太 | 宇田川 佳哲 | 石井 惇也 | 伊藤 小夜子 |
| 後藤 哲男 | 岡倉 光則 | 高橋 久美子 | 阿部 初子 |

(なお、令和 1 年 12 月 2 日以降 賛助会員は次号につづく)

ご寄附

- 小島 宗太郎 様
- 熊倉 アイ子 様

ご寄附を賜り厚く御礼申し上げます。

ご寄附いただいたものは、法人事業に使わせて頂いております。

編集後記

今年元号が平成から令和に変わり、だんだんと違和感なく令和に慣れてきたところです。会員の皆様には、日ごろから当法人の運営とご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。今号におきましては、各事業所にテーマを決めて、ご紹介をしております。

さて、今年の印象といえば、猛烈な台風が2度もやってくる、そして、首都圏の鉄道が計画運休するという事態になったこと。鉄道が走らないなんて驚いたと同時に、一体どんな猛烈台風が来るのか。連日テレビでは台風に関する情報が取り上げられており、心のどこかで「私は大丈夫だろう」と思う反面、備えあれば患いなし、と、テレビの情報を基に窓を養生テープと段ボールで補強したり食料を買いだめしたりしました。幸い、無事に過ぎ去り、事なきを得たのですが、翌日は、いつも走っている電車の音がせず、近所の公園には朝から子供たちの楽しい声が響き渡り、静かで穏やかな空気に包まれ、安心感からか、不思議な気持ちになったのが印象的です。

12月というのに気温が高い日が多く、台風も頻発し温暖化を肌で感じるようになってきました。2020年は東京オリンピックイヤーです。マラソンコースが札幌に急に変更になったのも夏の東京の暑さ故でしょうけど、東京に住んでいる身となるとちょっぴり寂しさがあります。しかし、新国立競技場も出来上がり、益々盛り上がることでしょう。世界がONE TEAMとなり、明るい未来が来ることを祈ります。

皆様、良いお年をお迎えください。